

講義名	(対面)・英語B (総合)		
科目区分	グローバル		
担当教員	Moore Mark		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 5時限	授業形態	
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

高校までに学習した英語内容の復習を含め、実用的かつ基本的な英語力、特にオーラルコミュニケーションスキルの向上を目指します。また、自ら積極的に英語を使ってコミュニケーションをはかろうとする態度も育成します。授業は英語で行われます。

到達目標

- ・Listening力を強化する。
- ・簡単な質問や基本的なコミュニケーションができる会話力を養成する。
- ・簡単なプレゼンテーションやディスカッションを通じて、自分の意見を英語で表現する力を養う。

提出課題

授業内でアナウンスします。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック

授業内で講評・解説等を行います。

評価の基準

出席状況、授業中の活動状況、小テスト、提出課題など平常点を60%、セメスター末の最終試験を40%として総合的評価を行います。

履修にあたっての注意・助言他

英語はいわば実技授業ですから、授業中の活動に積極的にチャレンジすること。たとえば出席が常ではなく、居眠りあるいは私語が多いということでは単位取得はかなり困難になるでしょう。規定の時間以上の遅刻は欠席となります。また、規定以上の回数欠席すると単位が認定されません。詳細は授業で知らせます。

教科書				
.Get Real! New edition Foundation Student Book.	Angela Buckingham	MACMILLAN	2,700	9780230447165

プリント資料及び参考文献

必要に応じて授業中に指示します。

授業計画

- 1 Guidance, 1-A, 1-B
- 2 2-A, 2-B
- 3 3-A, 3-B
- 4 1-3 Review
- 5 4-A, 4-B
- 6 5-A, 5-B
- 7 6-A, 6-B
- 8 4-6 Review
- 9 7-A, 7-B
- 10 8-A, 9-B
- 11 9-A, 9-B
- 12 7-9 Review
- 13 10-A, 10-B
- 14 11-A, 11-B
- 15 10-11 Review

授業形態(アクティブ・ラーニング)	
ア:	PBL(課題解決型学習)
イ:	反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:	ディスカッション、ディベート
エ:	グループワーク
オ:	プレゼンテーション
カ:	実習、フィールドワーク

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

「2単位の講義では、1回の講義について4時間の自己学習が必要」ということなので、その時間をテキストの語彙の予習・復習・課題等を使う。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考